



## お知らせ

記者発表資料	平成29年6月13日
配布日	

資料提供先：岡山県政記者クラブ  
岡山市記者クラブ

# ～治水・歴史・環境の調和を目指した最新技術～ 「百間川河口水門増築事業」が 平成28年度土木学会技術賞を受賞しました。

平成27年3月に完成、28年度より本格運用の百間川河口水門増築事業（日本最大※<sup>注1</sup>）のライジングセクターゲート※※<sup>注2</sup>採用）が、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与した画期的なプロジェクトとして認められ、平成28年度土木学会賞（技術賞Ⅱグループ）を受賞しましたのでお知らせします。

### 1. 土木学会賞（技術賞）の概要

土木学会賞は学会創立後6年目の1920(大正9)年に「土木賞」として創設されました。以来、80余年の伝統に基づく権威ある表彰制度です。

土木学会賞の技術賞には、以下の2つのグループがあります。

Iグループ：具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術

IIグループ：土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト

今回、百間川河口水門増築事業は、技術賞Ⅱグループで受賞しました。

### 2. 百間川河口水門増築事業の概要

百間川河口水門は、岡山市街地の洪水被害を軽減させるため改修を進めている旭川放水路（百間川）の河口に位置し、新水門増築により戦後最大規模の洪水が発生した場合でも、百間川下流部の氾濫被害が解消されます。

※<sup>注1</sup> 日本最大級：ゲートの「幅」「重量」「連続3門」が日本一。

※※<sup>注2</sup> ライジングセクターゲート：ゲートの両端が円盤となっており、円盤を回転させることにより開閉する。

【問い合わせ先】国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所

電話 086-223-5101（代表）

086-223-5184（工務課直通）

<担当>

副所長 今岡 俊和（内線204）

工務課長（事業内容） 児子 真也（内線311）

## 技術賞 II グループ

(土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト)



### (プロジェクト名) 百間川河口水門増築事業

ー治水・歴史・環境の調和を目指した最新技術～日本最大のライジングセクターゲートー

国土交通省 中国地方整備局岡山河川事務所

(選定理由)

百間川河口水門増築事業は、流下能力が不足する旭川放水路（百間川）河口部において新水門を増設し、沿川の浸水被害防止を図るものである。増設水門（平成水門）は回転式で開閉を行う新技術のライジングセクターゲートを採用し、支間長（33.4m）、重量（約 350 t）、門数（3門）は本形式で日本最大である。

全国的にも採用例が少ないため、構造について模型実験や数値シミュレーション等を実施し、この成果は後発の同型ゲートに活用され、新技術の開発に貢献している。

また、機能性に留意しつつ周辺地域や環境と調和したデザインとしている。管理橋では排水管や電線管などの添架物を主桁間内に収め、堰柱の形状は流水抵抗に対する影響が少ない円弧形状、あわせて天井部も緩やかな曲線形状とした。表面仕上げは、既設水門（昭和水門）が完成するまで（江戸干拓期～昭和 40 年ごろまで）使用されていた石の樋門（通称：唐樋）を意識し、御影石調の吹き付け人造石とした。

さらに、旧堤撤去時に発掘した部材を使用して平成水門・昭和水門の間に唐樋を復元し、河口部を守る三世代の水門を一望することができる。これにより、長年にわたる土木・治水事業の必要性を後世に伝える土木教育現場ともなっている。

このように、本事業は、浸水被害防止により地域社会の発展に寄与するとともに、新技術であるライジングセクターゲート技術の発展、周辺環境との調和に貢献すると評価され、技術賞に値するものとして認められた。

□参考資料（土木学会賞 受賞状況等）



●土木学会賞表彰式(平成 29 年 6 月 9 日)



●土木学会技術賞 表彰状



●土木学会技術賞（記念楯）